

平成 22 年 4 月 13 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520279

研究課題名 (和文) 18 世紀フランスのリベルタン文学と版画の研究

研究課題名 (英文) Studies in the Libertin Literature and (Erotica) Illustrations of Eighteenth-Century France

研究代表者

関谷 一彦 (SEKITANI KAZUHIKO)

関西学院大学・法学部・教授

研究者番号：40288999

研究代表者の専門分野：仏文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：18 世紀フランス文学、リベルタン文学、『哲学者テレーズ』、リベルタン版画

## 1. 研究計画の概要

(1) 18 世紀フランス文学研究の中で、これまでリベルタン文学はあまり注目されてこなかった。しかしフランスではプレイヤッド版の *Romanciers libertins du XVIIIe siècle* (『18 世紀のリベルタン小説家』) が出版され、ようやく学問対象として認知されつつある。こうした背景を踏まえ、日本であまり紹介されていないリベルタン小説を紹介するとともに、フランスで今なお発掘されていないリベルタン小説を明るみに出すことを目的とする。また、リベルタン小説にはさまざまな版画が挿入されていることが多いが、こうした版画研究はほとんど手つかずの学問領域であり、版画を分析するとともに紹介する目的ももつ。さらに、フランス 18 世紀の版画を、江戸時代の日本の版画と比較研究することで、日本とフランスの版画の比較研究も目指している。より広い射程として、版画を通しての比較研究から、日本とフランスの文化比較の可能性もあると考えている。

## 2. 研究の進捗状況

2007 年度から毎年夏休みを利用してフラ

ンス国立図書館 (BnF)、リヨン市立図書館、モルレー市立図書館で 18 世紀のリベルタン小説、とりわけ『哲学者テレーズ』の資料を収集してきた。こうして集めた資料をもとに以下のことを実行してきた。

## (1) 『哲学者テレーズ』の翻訳

2008 年度から継続しているリベルタン小説の中でも中心的な役割を果たしている『哲学者テレーズ』の翻訳をほぼ完成させた。2010 年秋に人文書院から刊行される予定である。

## (2) 『哲学者テレーズ』に関する論文

集めた資料から『テレーズ』の諸版を比較検討し、またテキストに散見される唯物論哲学の系譜を当時の文脈から考えようとしたものである。まず初版本の問題、作者の問題、テキストにみられる当時の思想の系譜、また『テレーズ』とサドのテキストとの関係、さらには挿絵の問題などを検討した。

## (3) リベルタン版画に関する論文

リベルタン版画の研究はこれまで猥褻を理由にあまり研究対象にされてこなかった。しかしながら日本の春画が見直され、アカデ

ミックな世界で次々と研究成果が発表されているのと同様に、リベルタン版画も見直しが進んでいる。『哲学者テレーズ』は挿絵数も多く、版によって挿絵も異なり、版画の研究対象として格好の素材である。『哲学者テレーズ』に関する挿絵の比較研究からわかるのは、挿絵はテキストの単なる説明ではなく、自立したもので、また挿絵には時代精神が描き込まれている。挿絵の役割、挿絵画家、鑑賞者についてなどまだまだよくわからないことも多く、今後の研究が待たれる未開拓の研究領域である。『哲学者テレーズ』の挿絵研究についての論文は 2010 年度夏までには刊行の予定である。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

『哲学者テレーズ』に関しては翻訳、論文、版画についての研究がほぼ終わることができたから。

### 4. 今後の研究の推進方策

今後はリベルタン小説の比較検討、さらには版画では日本の春画との比較が残されている。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 関谷一彦、「18 世紀フランスのリベルタン小説：『哲学者テレーズ』」、『言語と文化』13 号、査読無、関西学院大学言語教育研究センター、125-145、2010.